

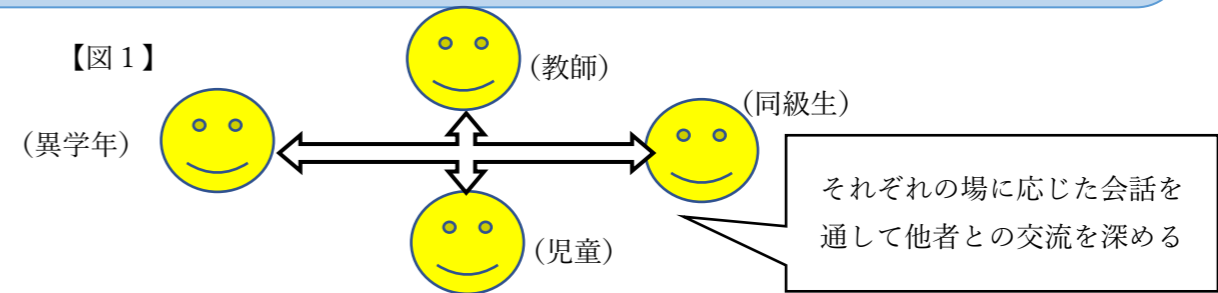
<p><b>1. つかむ</b> 【目標の設定】</p> <p>内容①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習課題を自分ごととして捉える</li> <li>・所属意識の育成</li> </ul>	<p><b>2. ふかめる</b> 【目的を意識した活動への参加】</p> <p>内容②・③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他者の意見を参考に、その場に合った姿勢を醸成する</li> </ul>	<p><b>3. つながる</b> 【活動の振り返り】</p> <p>内容③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標シートなどを活用して自己を振り返り、次につなげる</li> </ul>
--	--	--

研究の柱Ⅱ：かかわり合いを活性化させるしかけ

内容②：日常的に他者と関わり合うための環境設定

「かかわり合いを活性化させるしかけ」を行うにあたって、まずは、「人間関係の形成」や「コミュニケーション」に課題や困り感を抱えている児童に以下のような方法で二つの課題にアプローチしていくことが必要であると考えます。そのうえで、「関わり合いを活性化させるしかけ」を意図的に設ける。

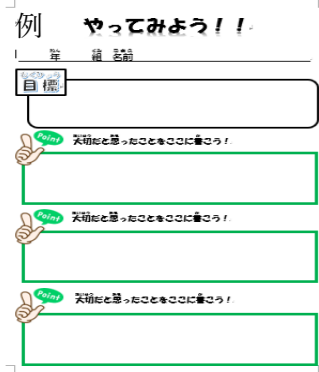
- (1) 人間関係の形成…特別支援学級独自の行事の設定 (【図1】)
- (2) コミュニケーション…自立活動を通し他学級との交流 (情緒・知的・病弱・交流)
- (3) 話す視点・聞く視点の明確化…話し合いの場の設定 (教師の代弁)



研究の柱Ⅰ：見通しと振り返りの工夫

内容①：学校生活と結びつけた課題設定

児童自身の「課題意識」を引き出すために、学校全体の活動（行事や環境整備等）や学級での活動（国語の言語活動やグループ単位での活動等）を意識して課題設定を行うことで児童の期待感や課題意識を引き出したい。また、単元の振り返りとして活動の経過を児童に示すことで学習の成果を自覚させ、自己有用感を育てたい。



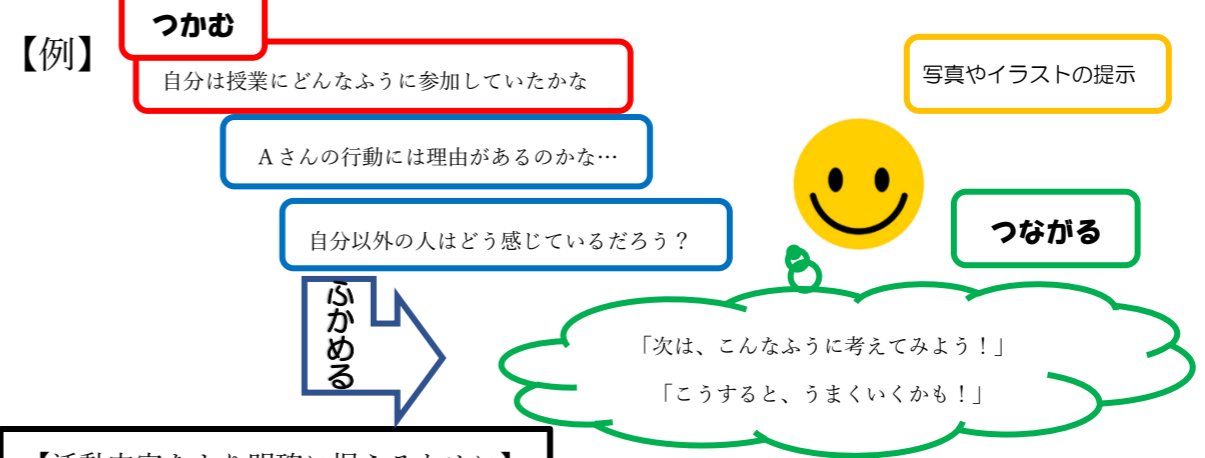
目標シートの活用

「行事への参加」や「交流学級での困り感の解決」を目標にマニュアル作成を行うことで、学習の見通しを明確にする。また、目標に関連した自立活動を結びつけ、1単位時間のまとめを「ポイント」とし、学びの足跡として記録していくことで、充実した振り返りができると考える。

研究の柱Ⅲ：個の学びの充実

内容③：個別の指導計画と結びつけた指導の工夫

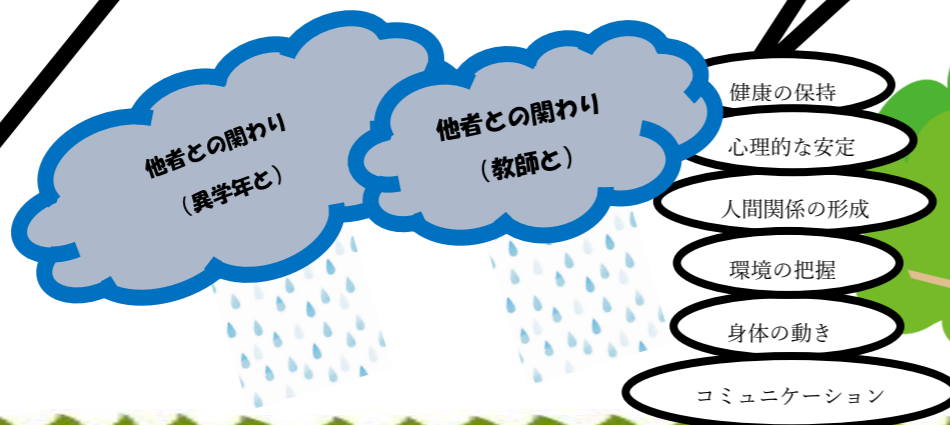
個の学びを充実させるには、それぞれの児童の教育的ニーズを踏まえた教材と活動の工夫が必要であると考えます。教材に映像や画像を積極的に活用し、可視化を図ることで、児童が活動内容を明確に捉えられるようにしたい。また、1単位時間の中で、「自分を振り返る時間」と「友だちの見方・考え方・感じ方を知る時間」を設けることで、自分を客観的に捉える力と他者意識の育成を図りたい。学習内容を多面的・多角的に捉えることで個の学びの充実を目指す。



【活動内容をより明確に捉えるために】

- ・学習の流れの可視化
- ・映像教材の活用
- ・日常の様子画像記録の活用
- ・マニュアル実行時の様子の提示 (単元の振り返り)

自立活動



特別支援の視点を交流学級に

授業のユニバーサルデザイン化

自己有用感

所属意識 (学校のために・身近な人たちのために)

目標と成果の可視化